

週目点

川本 裕子 早稲田大学教授



▶大納会

株価好調 浮かれは禁物

東京証券取引所などが三日、大納会を迎える。今年の株式相場は好調な企業業績を背景に上昇し、日経平均株価は約五年二月ぶり（一時一六〇〇〇円台）を回復した。不動産価格も都心部では底入れし、日本経済が長い低迷からようやく脱したとの見方が広がる。

しかし東証一部の予想PER（株価収益率）は二十倍を超え、世界の主要株式市場で最も高い水準となっている。不動産価格にしても、収益還元率の観点からは説明できない水準に達する地点が現れた。

これを「バブル再来」と警戒すべきか、むしろ現時点ではデフレへの逆戻りの方を心配すべきか、政府・日銀の政策のかじ取りは来年も判断が難しい。

ただ企業業績も、好調な米国内経済と円安という現在の好環境に変化があっても持ちこたえられるほど、腰が強いかはまだ疑問である。大納会の株価に浮かればかりいられないのだけは確かだ。

(C) 日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。